

西宮市の海岸動物

渡部哲也（西宮市貝類館）

はじめに

西宮市沿岸は阪神間では貴重な自然豊かな海岸が残されています。西宮市貝類館では夙川河口（香櫨園浜・御前浜）および甲子園浜で、大阪湾生き物一斉調査をはじめとして例年4回の観察会を行っています。これらの観察会で記録された海岸動物に加え、研究員による調査の結果をふまえて西宮にどのような海岸動物がいるのかを紹介します。

西宮の浜辺

夙川河口：現在では夙川河口の右岸を香櫨園浜、左岸を御前浜と呼ぶのが一般的です。かつては海水浴場として賑わいましたが、現在は遊泳できません。河口の前に西宮浜という人工島ができたため、河口からの水が外に逃げにくく、塩分濃度の低い海岸です。干潮時にできる干潟には踊るカニとして有名なハクセンシオマネキが生息しています。

甲子園浜：夙川の東にあり、かつて存在した阪神パークという遊園地跡の一部が水没してできた場所を含み、コンクリートの残骸が風化し、時を経て転石海岸のようになっています。東側には砂質干潟が広がっており「浜甲子園鳥獣保護区」として保護されています。夙川とともに干潟の代表的な巻貝であるウミニナが生息しています。

海岸動物の特徴

大阪湾奥部であることから塩分濃度が低く、タカノケフサイソガニやウネナシトマヤガイなどがみられる内湾型の動物相です。また、コウロエンカワヒバリガイのような外来種が多いのも都市部の浜辺に共通する特徴です。一方で近年ハクセンシオマネキなどの希少種も見られるようになりました。

西宮の浜と海岸動物

